

イベント等で使用するガソリンの 取扱いに注意しましょう!!

平成25年8月に京都府内の花火大会会場において爆発死傷事故が発生しました。

不特定多数の方が参加するイベント等の会場では、火気を使用した店舗が多数出店することもあり、一旦会場内で火災が起きた場合には今回と同様、被害が大きくなるのが危惧されます。

特に発電機などで使用されるガソリンは、引火点も低く、容易に引火する危険があることから、ガソリンの運搬や取扱いには、特に注意が必要です。

ガソリンの特性は…

- ◎引火点は -40°C 程度と低く、極めて引火しやすい。
- ◎揮発性がとても高く、その蒸気は空気よりも約3~4倍も重いので、滞留しやすく可燃性蒸気が広範囲に広がりやすい。
- ◎移動や注油の際に静電気が蓄積しやすい。



思わぬ事故を起こさないために、ガソリン携行缶は正しく
使用しましょう!!

詳しくは裏面を確認してください!!

1 ガソリンの危険性は・・・

ガソリンは、『-40℃』であっても可燃性蒸気となり、静電気等の小さな火源で引火し、爆発的に燃焼します。

2 ガソリンを入れる容器は・・・

消防法令で一定の強度のある素材を使用し、容量も制限されています。
灯油用ポリエチレン缶に入れることはやめましょう。

3 ガソリンの購入は・・・

ガソリンスタンドで購入できますが、セルフスタンドでは利用者が自ら容器に入れることは、消防法令で認められていません。必ず従業員に注油してもらってください。

4 保管については・・・

ガソリンは揮発性が極めて高く火災が発生すると、爆発的に広がることから、消防法令で定められた容器で保管としますが、極力控えるようにしてください。

5 携行缶から注油する場合は・・・

周囲に火気が無いことをよく確認し、水平な場所で行ってください。

注油前には、必ずエア調整ネジ等を緩め、缶内の圧力を調整してから、キャップを取り外してください。圧力の調整をせずにキャップを外した場合、ガソリンが噴き出したり、キャップが飛ぶなどの事故につながります。

使用前には必ず携行缶の取扱説明書を十分に読んでから使用してください。

6 イベント等で、保管が必要な場合は・・・

保管が必要な場合は、火気の使用が無く、日光等による温度変化が少ない等の場所で保管してください。

携行缶内の液温が上昇すると、携行缶内圧も上昇し、その状態でキャップを開放すると、可燃性蒸気が噴き出したり、ガソリンが噴出しますので、キャップを開放する前には必ずゆっくりと圧力を抜く操作をしてください。

携行缶の調整ネジ 例

※まずは、調整ネジ等を緩めてください。



この他にも多量に保管する場合には、事前に消防署に相談してください。